

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490300106		
法人名	学校法人 鈴鹿文化学園		
事業所名	グループホーム 愛すみよし苑		
所在地	鈴鹿市住吉一丁目23番8号		
自己評価作成日	平成24年8月31日	評価結果市町提出日	平成 24 年 11 月 6 日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 24 年 10 月 2 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅地の静かな環境にめぐまれており、公園や商業施設や病院、薬局には歩いて行けるほどの距離にある。地域の方々が花や野菜を届けて頂ける環境にある。当苑の理念にもあるように、利用者様が家庭的な雰囲気の中で馴染みの人間関係や環境を維持しながら、その人らしく生活していく事を支援しています。環境を整えて、穏やかな落ち着いた生活を営んでいただけるように、接し方や言葉かけに配慮しながら、利用者様の人権と尊厳を最大限に尊重しています。又隣接する医療福祉専門学校の介護福祉科の生徒やボランティアの訪問もあり、利用者様と外部の方々との交流も頻回にあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の意向や希望を察し、一人の人間として尊重し事業所理念の他に「三つのない」①おどろかさない②いそがせない③自尊心を傷つけないを心掛け、職員は職業的使命感だけではなく利用者に対する家族愛と受け入れ、常に家族同様に接して支援努力している。管理者も職員の質の向上を目指し、人的環境を良くし、食欲・会話によっていつも笑顔のある生活を送って頂くことを目標としている。住宅街に設立し、家族からも笑顔で職員は迎えてくれ本当に家族の様だと言われている事業所である。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に理念を掲示し毎日の朝礼時には全員が唱和している。理念を実践につなげるように、会議で話し合ったり、朝礼で施設長や管理者から話をしている。	事業所の方針理念をいつも見える所に掲示し、朝礼時に唱和し口に出すことによって認識され実践している。また、月1回(グループホーム会議)とデイサービスを含めた全体会議でも管理者と職員で確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入っており、地区の公民館の催しにも積極的に参加させて頂いている。散歩に出ると、咲いている花を切って下さる方があったり、挨拶を交わしていただける。地域の中、高等学校の職場体験を受け入れている。	公民館活動行事や地域の催し等に参加し、認知症等の勉強会も開催されている。自治会での防災(避難経路、場所)を確認したり、中・高校生の職場体験も毎年受け入れている。また、地域のボランティアの方も宴を披露してくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社会福祉協議会のすごろく展に利用者の作品を応募したり、母体の学校の「介護、福祉フェア」にも作品を出している。また地域の方の相談にも対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1回開催して、話し合いや意見の交換を行っている。会議の内容は議事録に残し、聞かせて頂いた意見は全体会議にあげてサービスの向上に活かしている。	2ヶ月毎に開催している。参加者も多く目標達成項目・防災に関する議題が主であったが成果は上っている。今後も議題を取り上げ、開催していく意向である。次回開催日も終了後に日にち、時間を決め出席の参加をお願いしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	随時広域連合との連絡を行い、ご指導頂いている。地域の方の相談を受けて包括支援センターに繋げたりしている。運営推進委員会には包括支援センター職員、広域連合から介護相談員に参加頂いている。	介護相談員が毎月訪問しており、利用者の状況等情報交換しているが、入居情報・介護保険更新時等に訪問し、苦情・相談事も随時行っている。市からも入居者の紹介等ある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を組織しており、身体拘束だけでなく精神的な拘束、高齢者虐待等についても、全体会議で話し合っている。外部での勉強会にも積極的に参加している。	身体拘束廃止委員会で毎年始めに、具体的な事例を挙げ、常に身体拘束をしないケアを目指して職員で検討研修している。(言葉の拘束、高齢者虐待防止も含めて)したがって、現在も全く拘束は無い。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業者内で虐待が見過ごされないように注意を払い、防止に努めている。管理者も職員も虐待があってはならないと認識している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活支援や成年後見制度について必要性を感じ社会福祉協議会や包括支援センターの講演会に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用者や家族の思いを十分に聞き、契約時に説明を行い理解して、納得して頂いてから契約を交わしている。また不安や疑問に対しては、常に回答出来るように受付窓口を設けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に相談、苦情の窓口を明記し、口頭において説明をおこなっている。又管理者がモニタリングの場において利用者や家族の意見要望を聞き取りしている。面会時にも意見要望を聞き、運営に反映できるようにしている。	面会日に家族にケース記録を見てもらい、意見・要望(最近は外出を多くして欲しい等)を聞いている。また、3ヶ月毎のモニタリングでも聞いている。何でも言えるように居室で利用者・家族と話し合いを持ち、意見・要望を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時あるいは、定期的な会議、朝礼時の場で職員の意見や提案を取り上げ、検討し、よりよい運営につなげていく体制もでき、反映させている。	6ヶ月毎に施設長を交えて意見を聞く機会を設けている。また、カンファレンスでは毎月統一したケアの方法を意見交換している。職員のユニフォームは家庭的な雰囲気を表せるようにジーンズを着用したり、職員旅行の要望もあり反映実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の仕事上の悩み等が蓄積して仕事のモチベーションが下がらない様に施設長、管理者が話を聞く等の対応をしている。また職員が資格を取得した時は各自の給料に反映している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外での研修会へ職員の希望に応じて参加できるようにしている。母体の介護福祉科の教師に依頼し勉強会を開いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種研修会参加を奨励し、同業者との情報交換を行っている。同業者の施設見学も行っている。「良い」と思った事は自職場で検討し取り入れている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談時に本人の困り事や不安、要望を聞き取る。利用開始までに生活歴職業歴生活のリズム等の聞き取りをフェイスシート基本情報を仕上げ、「馴染み」の環境を継続でき「安心」して生活できるように職員で共有出来る様に配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前ご家族の困りごと、不安、要望を聞き取り、基本情報の中に入れて、職員で共有できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族に施設長、管理者が面談し、当施設で対応出来る事と出来ない事を説明して、他のサービス利用も含めた対応に配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を一人の人間として尊重し、また人生の先輩であるという意識を持って、日常生活の中で教えて頂いたり、役割を持って頂き、支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が気軽に参加できる行事を行ったり、面会時や電話等で情報交換をして本人を支える為の協力関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの知人に訪問して頂いたり、ご家族の協力をいただき、馴染みの場所や自宅にお連れして頂いている。法事など馴染みの方が集まる会にも出掛けられている。	幼馴染みの知人が尋ねて来たり、デイサービスの利用者と話をしたり、また、美容院に行ったり法事にも家族と行く利用者もある。盆、正月には家に外泊する利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が馴染みの関係になっており、帰宅願望の出た時にお互いに慰めや励ましの言葉をかけておられ、他者を気遣いながら、支え合っている様子がみえる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自宅に戻られた方はないが、転所された方、亡くなられた方ご家族との交流はある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションも含め、本人の話をよく聞きながら把握に努めている。本人からの聞き取りが困難な場合は家族と共に聞き取りをして、本人の意向に添っている。	日頃の話の中で把握し、記録している。家族からもモニタリング時、また、ケース記録を見せて意向等を把握している。介護相談員が「あなたの疑問、不安を聞かせて下さい」と食堂に掲示し、情報収集している。センター方式も作成途中である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの情報により、フェイスシートアセスメント等基本情報に記入しチームで共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	観察やコミュニケーションで得られた情報を毎日の記録に残す事で職員で共有し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族と介護計画作成者でモニタリングをしている。利用者の各担当者はアセスメントを毎月行い記録に残している。各担当者、看護師の意見を交えながら、現状に即した介護計画を作成している。	原案を作り、家族にはケース記録を見てもらい意見を聞き、看護師・職員で検討し作成している。モニタリングは3ヵ月毎に行い、見直しもしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の業務日誌を昼夜に分けて記入している。また個別記録の記入や申し送りノートを活用して情報の共有はもちろんの事、ケアの実践や介護計画の見直しに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望は可能な限り聞くように努めている。無理な場合はその要望に応じたサービスが出来るように話し合い、実施出来るように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源として隣接する学校の介護福祉科の介護ボランティアやレクリエーションボランティアが来苑されて、アクティビティに参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	特定のかかりつけ医を持たない利用者については、当施設協力医の往診を月2回実施している。近所の医師をかかりつけ医にしている方にも月2回の往診をうけている。	かかりつけ医、協力医共往診が月2回あり、歯科、眼科等は事業所でその都度受診対応している。緊急時は主治医の指示の下、看護師が判断し救急対応している。健康診断も毎年実施している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医の看護職から週3回出勤しており、緊急の場合や夜間も介護職からの報告に対応し指示を出している。当法人の医療福祉専門学校の常勤の看護師に相談できる体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院治療を要する利用者については、管理者や職員が病院に出向いたり、電話で付き添いのご家族や病院の看護師に状態を聞いたり、情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族との聞き取りをしている。当苑で出来る事、出来ない事を入所前に充分に説明している。主治医が「重篤とおもわれる」と判断された場合家族と親密な連絡をとった。	看取りの研修は行なっているが、医療行為は出来ないのでは事業所として体制は出来てない。契約時には説明をしているが、一部の家族からの要望もあるので将来的に向けては考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応マニュアルは作成してある。定期的な訓練は行われていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、消火訓練を行っている。朝礼や全体会議に避難訓練の話題を上げて職員の意識付けを行っている。	避難・消火訓練は年2回、事業所で行なっている。自治会には協力を得ており、職員には会議で避難訓練の意識付けをしている。避難場所、経路は確認済みだが事業所から遠い。備蓄はしている。	事業所だけの訓練や机上訓練だけでなく、消防署連携の下、数多く、幾種類かの訓練の機会を増やし、繰り返し実施する事で身につくので職員ひとり一人の役割を持ち、地域の協力を得て行動できる防災訓練を期待する。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応は、誇りやプライバシーを損ねる事のないように充分注意している。	常に、さん付けでやさしい声がけを心掛けている。また、プライバシーに関わることは他の利用者に気づかれない様に気を配り、おむつ交換などは居室で行なっている。職員には採用時に個人情報の守秘義務に関わる誓約書を取り交わしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	極力本人の希望に合わせるよう努めている。本人が思いや希望を表現しやすいように、寄り添いながら、その人のペースに合わせて生活している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何がしたいのか希望を聞き、出来る限り叶えられるように支援している。レクや苦手な事の強要はせず、基本的に自由な意志決定をして頂き、利用者個人の能力に応じた対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望の方に定期的に理容師の出張サービスをうけている。家族の協力を得て、いきつけの店に行かれることもある。服装は本人が選んだり、職員と共に選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の能力に応じて食事の準備や食器拭きや台拭きをしている。役割として認識している方もある。介助が必要な方には料理の説明をして楽しみながら食事をして頂くように配慮している。	献立の中に季節メニュー(季節の野菜、魚等)、行事メニュー(お月見会食等)、郷土料理(大分県の産物)を盛り込み、楽しい食事である。外食には回転寿司、ラーメン店へ時々、出掛けている。職員は介助と誤嚥防止の見守りを心掛けている。出来る事は役割を決め(野菜を切ったり等)食事の準備をしている利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事摂取量等の記録を行っている。水分に関しては、食事時・おやつ・夜間時等の水分摂取で確保している。夏場は脱水対策をしている。個人の好みの補助食も用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人の状態に応じて毎食後、口腔内の手入れや義歯の手入れを支援している。義歯のない方には、スポンジブラシを使いケアをさせて頂いている。かかりつけの歯科医に家族の協力の元、通院されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個人の排泄パターンを記録し周期や状況をみながら、誘導を行い、排泄の自立に努めている。	トイレで排泄する事を目的とし、排泄パターン表でチェックしトイレに誘導している。夜間のみポータブルトイレを使用する利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を含む食材を利用した料理や、日中の活動(散歩・体操等)等で身体を動かして、なるべく自然排便ができるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は決めておらず、週3回以上入浴するように清潔保持の為に声かけで入浴していただいている。現在、お一人が入浴拒否あり、起床時や就寝前等に声をかけたり個々に添っている。	最低3回、入浴できる様配慮している。特殊浴槽があり、寝たままでも入浴が出来る。また、季節に応じた菖蒲湯、柚子湯も楽しめる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	短時間の昼寝を求める方もおり、個別の対応を行っている。基本的には夜間の睡眠を最優先としている。生活習慣からベッドを使用されない方もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルには、服薬している薬の説明書がはいっており、服用前や服用後のチェックの記録を毎回行っている。服薬変更の場合は連絡帳に記録し職員全員周知の徹底をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し・たたみ、掃除、食器洗い・吹き、花の水やり等を職員と共に一緒にしたり、『役割』としてとらえてしている方もある。散歩や買い物に外出したり、昔話をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば外食の機会を設けたり、散歩を兼ねて近所の店に買い物に行く事がある。また近所の公民館活動の行事に参加している。定期的にご家族と共に外出される方もある。	近くの公園まで散歩に行ったり、地域の催しに参加している。また、近くのスーパーへの買い物や、事業所内の花壇を見に行き季節感を感じてる。家族と共に外食や海、美容院に行ったり、事業所として花見や近くの海へ外出している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	盗難や健忘等の諸問題の発生から余計な心労を防ぐために金銭の管理は事務所が一括に行っている。利用者の希望で職員と一緒に買い物に同行したり、依頼品を職員が購入する事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば支援をおこないます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる花を飾ったり、外出時の写真や笑顔を貼っている。季節に合った飾り付けで落ち着いた環境を作っている。利用者の好みを聞いて音楽を流している。	食堂には檜の大黒柱があり、居間は木材をふんだんに使い落ち着いた空間になっている。壁には行事で外出した時の写真、職員と作り上げた季節の作品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士会話したり、新聞を読んだり、思い思いに過ごしている。地権者様が厚意により、道路を隔てた施設向かいに、テーブルや椅子を置いてくださった。数名の方のお茶の時間や外気浴を行うなど、憩いの場所になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、出来るだけ使い慣れたものを持って頂く様にして、居室の工夫は本人と家族に任せている。またお誕生日のカードやプレゼントを飾ったりする方も多い。	事業所が用意した電動ベット・洗面台があり、使い慣れた椅子、家族の写真、趣味であるカラオケセット、作品等が持ち込まれ、また、職員が利用者の誕生日に寄せ書きした色紙が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設は全面バリアフリーで、手摺が各所に取り付けられており、備品はユニバーサルデザインを採用している。個々の身体機能に応じて福祉用具を使い安全かつ自立した生活が送れるように努めている。		